

哲學研究

第三十六卷 第七册

第四百十七號

昭和二十八年七月十日發行

公通性 (communication) と流通性 山内得立
(communication)

無我思想に於ける業の概念 佐々木現順

デカルトの實體論 三輪正

——理論、經驗、實踐——

京都大學文學部内
京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行う
- (一) 毎月一回研究会を開く
- (二) 毎年公開講演會を開く
- (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した者に委嘱する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けない、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年八四〇圓、又は半年四二〇圓を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

京都哲學會役員

委員 有賀鐵太郎

井島勉

上野照夫

白井二尙

重澤俊郎

下程勇吉

島原芳夫

關原太郎

高田三郎

武内義範

田中美知太郎

長尾雅人

西谷啓治

野田又夫

松尾義海

三村勉

矢田部達郎

第二にしかしそれは單なる暗號として止ることが許されない。自己一人にのみ解讀せられ得るのは暗號であるが、萬人によつて理解せらるべきものは記號である。意味の公通性はそれ故に他我の認識となつてあらわれる。公通性は就中他我の認識に於て、即ち人と人との公通性に於て最も顯著となるであらう。言語は人と人とを結びつけるものであつた。言語が社會的機能を果すといわれるのもその理由によるであらう。community は即ち communication であるに外ならなかつたからである。

カントの認識論は主として自然的事物の認識を論ずるものであつたからして意味の問題は彼に於て看過せられてしまつた。認識論はこの外に、他我の認識を加えて問題としなければならぬ。否、我々の考えからすれば、自然的事物の認識ですら意味の解讀であり、此等の二つの場合を通して意味の問題は認識論の中心をなすものといわねばならぬのである。

(J)

communication を「公通性」と譯してみたが果して妥當であるか否かは覺束ない。この小論は重要な問題をふくんでいてと思われ、他日詳論しなければならぬが、今は強要せられるままに、不完全なる素描として残して置こう。

前 號 目 次

コーヘレスにおける智慧……………	有賀鐵太郎
中觀哲學の論理形態(完)……………	梶山 雄一

筆者

文學博士、京都學藝大學學長
 京都大學文學部「哲學」名譽教授

會告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區田中西浦町弘文堂内京都哲學會係宛に規定の會費（年八四〇圓又は半年四二〇圓）をお拂込下さい

「振替口座京都一九五五八番 京都哲學會」

一、會費切れの場合は帯封に「前金切」の印を捺しますから直ちに御拂込下さい、一年分（又は半年分）會費は原則として本誌十二冊（又は六冊）の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年（又は半年）毎に精算します

一、會員の轉居入退會等（編集事務以外は一切）の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい

一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京都哲學會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和二十八年七月五日印刷
昭和二十八年七月十日發行

編集人

京都大學文學部内

右代表者

三村勉

發行人

酒井明

印刷人

伊藤久春

印刷所

弘文堂印刷部
京都市田中西浦町四〇

發行所

株式会社
弘文堂

東京都千代田神田駿河臺四ノ四

註文規定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に關する件は「弘文堂」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金郵税共（一部、定價七十圓・郵税八圓）前金にてお送り下さい

一、特に請求書及び領收書を要する場合は郵券八圓をお送り下さい

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XXXVI

July, 1953

No. 7

Communication and Communization..... Tokuryû Yamauchi

*The Concept of Karma in the Thought
of Anattā*..... Genjun Sasaki

The Descartes' Notion of Substance..... Tadashi Miwa

Published Monthly

By

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan